

第六十四師団 独立輜重兵第六十中隊 部隊略歴

陸軍大尉 龍 沢 熊 吉

年月日	概 要
昭和十六年七月	部隊は軍令陸甲中 号に基き輜重兵第六十二連隊に編成下令 編成業務に着手
八、三	編成完結
八、三	中隊長 陸軍中尉 藤沢熊吉以下 四三〇名 輜重兵第六十二連隊に在りて出勤準備
八、三	滿洲派遣の越神戸港出発
八、三	鮮滿国境(安東)通過同日刺東軍司令官の隷下に入る
自九、八 至九、十九	東安省雞寧に在りて第六十軍司令官の隷下に国境警備並輸送業務に従事
自十一、三 至十二、五	奉天省海城に在りて附近の警備並に輸送業務に従事
自十九、九 至十九、十九	東滿総省綏陽縣綏陽に在りて国境警備並に輸送業務に従事
九、六	滿洲国内に於ける人員の異動補充交代内遷転履歴詳細確實なる人員不明 戦死死者 兵七名 編成定員四三〇名を充足

36

外

中支 第六十一軍

(146)

0653

九、十九	中支那に駆進のため毅田出発
二十	山海關通過支那派遣軍總司令官の隷下に入る
二十、二十三	第一軍司令官の隷下に入る
二十、二十一	第二軍司令官の指揮下に入る
二十二、二十三	南部粵漢打通作戦に参加
二十三、二十四	湘西作戦に参加
二十三、二十四	湘西反戦作戦に参加
二十四、二十五	第六十四師団長の指揮下に入る
二十六、二十七	停戦詔書發布
二十八、二十九	湘陰地区に集結
三十、三十一	内地帰還の途湘陰出発
三十二	上海出発
三十三	佐世保港到着
三十四	佐世保上陸
三十五	佐世保に於て復員式終了同日百集解除せらる
三十六	内地帰還時主力と分離し復員した一部部隊の経歴は省略す

(145)

0654

独立輜重兵中隊

陸軍大尉

堀口良一

年月日	概要
昭十六、七、三十 八、三	<p>部隊は軍令陸甲中 号に基き輜重兵中隊五十二連隊に編成不令 編成業務に着手 編成完結</p>
大九、七	<p>中隊長陸軍中尉宮崎正雄以下將校七名准尉一名を以て編成担任す 中隊長交代し陸軍中尉堀口良一就任し現任し現任に列る 編成定員左の如し</p>
	<p>中隊長中尉 一、小隊長小尉 三、主計少尉 一、軍医少尉 一、獣医官少尉 二、 兵科准尉 一、主計軍曹(曹長) 曹 一、衛生軍曹 一、獣医務軍曹(伍長) 二、衛生兵 三、 兵科兵 四〇六、合計 四三〇名、馬匹 三五五頭</p>
至自 大八、二 八、三	<p>行動の概要 輜重兵中隊五十二連隊に在りて出勤準備 神戸港出発</p>
至自 九、八 九、十九	<p>群荷国境(安東)通過南東軍司令官の隷下に入る 牡丹省難容に在りて中隊二十軍の隷下に入り国境附近の整備並輸送業務に従事</p>

(146)

0655

至自 九、二、七 九、九、九	九、三、三	至自 一、一、十五 三、三、三	至自 六、二、十五 六、十、十	六、十、十	七、三、三	九、三、三	三、五、一	六、三、五	六、三、三	七、三、三	七、五	
奉天省海城附近の警備	東滿鐵省綏陽に在りて国境警備の傍輪送業務に従事	中支に転進の爲鞍山出發	山海關通過支那派遣軍總司令官の隷下に入ると同時に第十一軍の隷下に入る	南部粵漢線打通作戦に参加	湘贛作戦に参加	湘西反叛作戦に参加	集結の爲湖南省長沙縣葉家嘴着	集結の爲湖南省湘陰縣湘陰着	帰還の爲湘陰出發	上海出發	浦賀着	上陸
横須賀に於て復員式等式同日召集解除せらる												
内地帰還時主力と分離し復員した一部、部隊の跡地は省略す												

(147)

0656

独立自動車第三十一大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十六年七月七	動員下令
七、七	近衛輜重兵連隊補充隊に於て独立自動車第三十一大隊編成完結 部隊長 少佐 板倉勝満
八、六	東北派遣の爲屯営出発
八、八	神戸港出帆
八、十	釜山港上陸
八、十四	國門通過
八、十四	第五軍司令官の隷下に入る
八、十七	東北東三省虎林縣虎林到着
八、十七	第七野戦輸送隊長の隷下に入る
九、五	虎林附近に位置し警備並に軍需資材の輸送に任ず
十八、九、九	密山縣斐徳に移駐す爾後斐徳に在りて諸種の輸送並に教育訓練に従事す 大隊長更迭 大尉 生田目富雄
十九、四、十五	輜用の爲斐徳出発
四、十	山海関通過
同日	中国派遣軍の戦闘序列に入らしめられ派遣軍總司令官の隷下に入る

37 外 中支 第十一軍

0657

四十六	湘南輸送に依り贛州出發	至	五
四十五	石炭密上陸	至	五
四十四	中華民國湖北省武昌到着 兼中部隊の局地輸送	至	五
四十三	第十一軍司令官の隷下に入らしめら第十一野戰輸送司令官の指揮下に入る	至	五
四十二	武昌出發 湘桂作戰に参加	至	五
四十一	湖南省長沙に位置し局地輸送並長沙—易俗河間の輸送	至	五
四十	湖南省潭陽中路鋪に位置し易俗河—衡山及衡陽間の輸送	至	五
三十九	湖南省全縣黃沙鋪に位置し祁陽—黃沙鋪及全縣間の輸送	至	五
三十八	廣西省桂林南方二十五料地点良豐墟に位置し桂林—荔浦間の輸送並桂林—	至	五
三十七	永福間の列車輸送に従事	至	五
三十六	部隊長更送 大尉 山下治之	至	五
三十五	湘桂反戦作戰に依り桂林出發	至	五
三十四	湖南省祁陽到着	至	五
三十三	停戦詔書發布	至	五
三十二	祁陽に於て停戦詔書賜る	至	五
三十一	復員下令	至	五
三十	停戦協定締結	至	五

年月日	概要
昭和十九年九月十五	湖北省武昌縣賀勝橋到着
十一	武装解除
十一	中十戦俘管理所に入所
二十、四、十九	内地帰還の爲賀勝橋出発
四、三	東武昌出帆(民船により)
五、十三	南京到着
五、十五	上海到着(列車輸送により)
五、三十	上海港出帆(秘蔵艦艇により)
六、六	鹿児島港上陸
六、七	鹿児島高島屋宿舎に於て復員式等行
六、六	除隊百集解除

中支中十一軍

(150)

0659

独立自動車中三十二大隊

陸軍少佐 河村清作

年月日	概 要
昭十六七、十二	臨時編成(甲)下令
七、十六	編成担任部隊 近衛援東連隊補充隊(近衛師団) 編成完結
八十二	滿洲派遣の赴東京出発 部隊名 独立自動車中三十二大隊(密中五八六二部隊)
	衛成本部 材料廠 四ヶ中隊
	車輛 二一八
	人員 八〇八
	大隊長 陸軍中佐 宮崎繁二
	爾末内地に在りて教育訓練に従事
八十七	滿洲派遣の赴東京出発
八十六	神戸港出帆
八十五	大連港上陸
八十三	関東州界通過
	同日中五軍司令官の兼下に入り中七野戦輸送司令官の兼下に入る。

(151)

0660

年月日	概 要
昭和六、八、三六	東安省虎林縣虎林到着 爾未内地附並の警備並に輸送業務
九十四	東安省密山縣斐徳に移駐 爾未内地附並の警備並に輸送業務
一、十二	大隊長更送 獨立自動車中二十二大隊長陸軍中佐官脇襄二 補中五軍司令部附
十八、三、一	獨立自動車中七十七隊附陸軍大尉 沓藤 春 補獨立自動車中三十二大隊長 大隊長更送
十九、四、八	獨立自動車中二十二大隊長 陸軍少佐 沓藤 春 補南方軍兵隊部附 輜重兵中五十三連隊附 陸軍大尉 河村 清 依 補獨立自動車中三十二大隊長
四、十一	中華民國派遣を命ぜられ駐屯地出發 山海關通過
五、六	同日中國派遣軍總司令官の職下に入らしめる 湖北省河口通過

38 外 中文 第十一軍

(132)

0661

五、七	同日第十一軍司令官の指揮に入る 湖北省石灰寮上陸 同日湖北省武昌到着
三、八、十四	同日第十一軍司令官の隷下に入り第十一野戦輸送司令官の指揮に入る 爾末相桂作戦同反転作戦に参加
八、十五	停戦詔書発布 復員下令
九、二	停戦協定締結
九、六	湖北省成寧縣成寧縣に移駐独立歩兵第十一旅団長の指揮に入る 爾末同地に在りて停戦後の諸業務
十、一	湖北省成寧縣成寧に於て中華民國第六戦区第十一日本官共管理所に入所 爾末諸業務に服す
三、四、九	内地帰還の途同地出発
五、三	上海港出帆
六、六	仙崎港上陸

(155)

0662

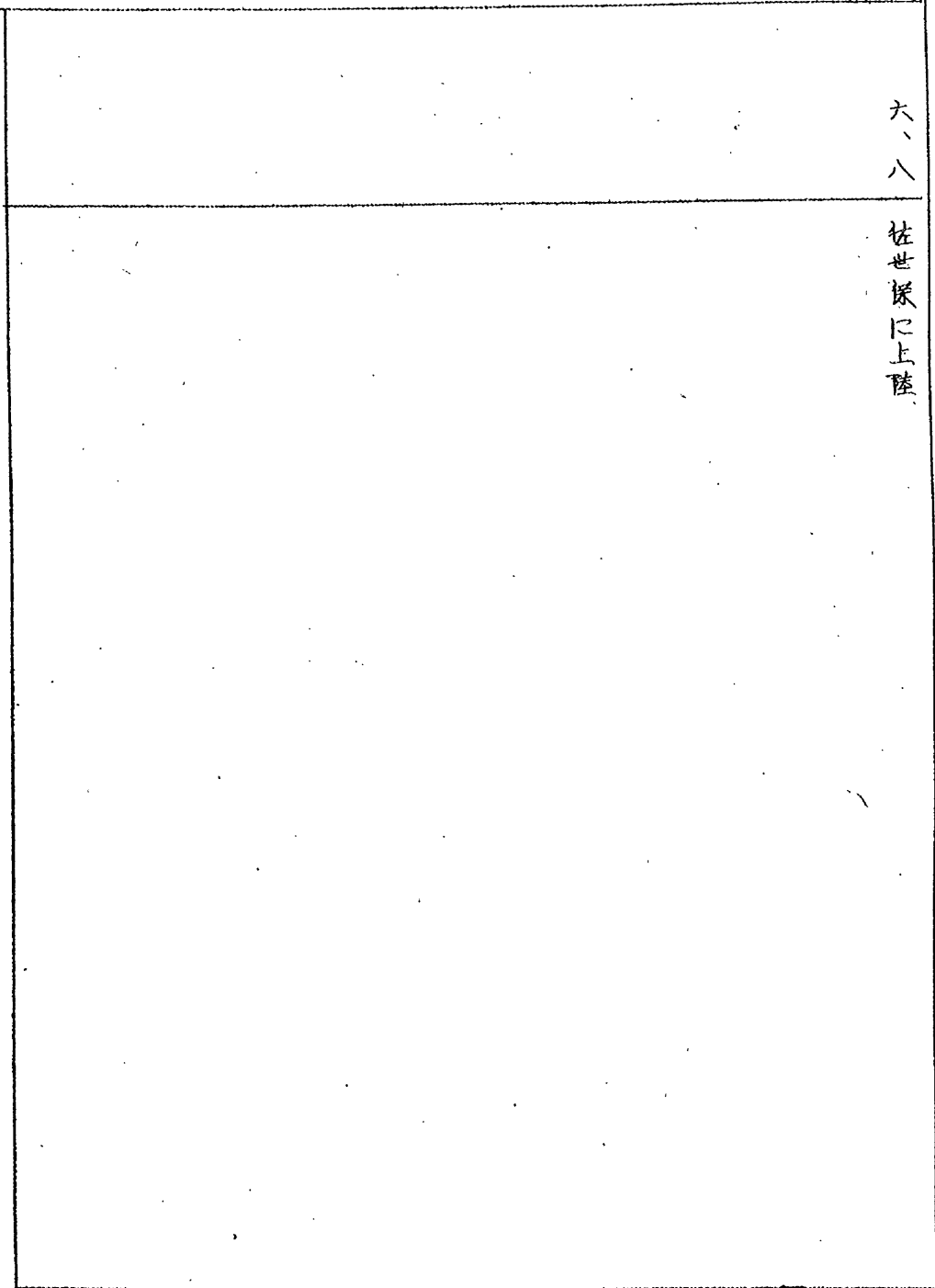
独立自動車第 三十三大隊 部隊略歴

年 目 日	概 要
昭十六、八十一	並衛輜重兵連隊補充隊に於て勳員を完結
八、十五	大隊編成表 隊長少佐 瀬戸木男
八、十七	東京出発
八、三十五	神戸港出帆
九、十	鮮満国境(個竹)通過時を以て第 三 軍司令官の隷下に入り同日牡丹江省牡丹江市着
九、十五	牡丹江省寧安縣拉古に移駐
九、十八	牡丹江省寧安縣梅林に移駐爾後主力は同地附近の警備並教育訓練に従事
三、十四	中支移駐の越海林出発
自 四、三	湖口通過時を以て第 十 一 軍司令官の隷下に入る
自 八、八	湘桂作戰(第一期)参加
自 八、九	湘桂作戰(第二期)参加
至 八、十四	停戦の詔書発布
至 八、十二	湖南省煇湘縣長安着爾後復員準備
至 五、三	上海出帆

中支 第十一軍

(154)

0663



六、八

佐世探に上陸

(155)

0664

独立自動車第八十三大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十八年八月二日	軍令陸甲第六十九号に依り独立自動車第八十三大隊編成下令
八月三日	滿州国東安省雞寧縣雞寧に於て編成完結
九月十三日	大隊長 陸軍大尉小田壽一以下七五六名 滿州国向の海省汪清縣豊鏡に移駐
自十九日 至十九日	東安省雞寧縣雞寧及向海省汪清縣豊鏡に在りて同地附近の輸送業務並に警備に従事
四月九日	中文出動のため向海省汪清縣豊鏡出發
五月十九日	中華民國湖北省武昌縣武昌到着
自五月十七日 至五月十七日	湘桂作戰(第一期、第二期共)參加
十一月十三日	右期間行動経路及地域 武昌——景陽——趙李橋——通城——南江橋——通城——趙李橋——岳陽——新市)
十一月八日	部隊長任陸軍少佐小田壽一
十一月八日	南部野英打通作戰並に湘西作戰に參加
八月十五日	停戦詔書受発
九月二日	停戦協定締結

39

外

中文

中

軍

(156)

0665

陸軍輸送部 大正三年
8373の本印のニヤク(陸軍)

<p>10 中隊の43号 陸軍中隊の43号と44号 712 表年箱 天1輸送司の424(2)と2</p>	<p>七、一 七、九 七、一 六、九</p>	<p>三、四、九 五、十 五、十六 十、三</p>
<p>1 中 緒方大尉 2 中 井上 3 中 山根 4 中</p> <p>市川 乙幹 軍務 1 中隊 海外係(通訳)</p> <p>山口 生 1 中 宇野 幸 1 中 通訳 徳田 隆 1 中 野村 信 1 中 通訳</p> <p>10 Co. は 8373 11 Co. は 8374 12 Co. は 8375</p>	<p>除隊式終了 復員完結 浦賀上陸 上海出発(海路) 上海到着</p>	<p>部隊主力は湖南省長沙縣九福郷に集合一部は湖南省嘉善縣路口鎮に集合 騎兵(六六名)内地に向い長沙縣九福郷出発 復員のため長沙縣九福郷出発 湖南省岳陽到着部隊の一部(在岳陽部隊)主力に合流し鉄道に依り武昌—漢口—鄭州—開封—徐州—南京を経由</p>

独立自動車中隊

陸軍少佐 市野 保

年月日	概	要
昭和十九年四月一日	編成完了	軍令陸中隊一隊に依り千葉市京東隊に於て臨時編成
四月五日	門司港出帆	
四月八日	楊子江口通過	
四月十日	南京上陸	
四月十六日	派遣軍司令官の隷下に入る	
五月十八日	烟台通過	
五月十八日	第十一軍司令官の隷下に入る	
五月二十一日	相桂作戰参加	第十一軍並に第二十軍に対する補給輸送業務
五月二十一日	南部専攻打退	相桂作戰に対する補給輸送業務
五月二十一日	相面作戰	相面作戰に対する補給輸送業務
五月二十一日	第十一軍並に	第十一軍並に第二十軍に対する補給及販進に伴う緊急輸送業務
八月十五日	停戦詔書発布	

(138)

0667

九二 五、八、十八 五、五、十	五、十一 五、十七 五、二十一	停戦協定締結 復員業務並に兼船地集結のための行動 内地帰還のため上海港出帆 博多港上陸 復員完結
-----------------------	-----------------------	--

)
ム
K
)
支
)
十一
年
)
)
)

(159)

0668

迫撃中一大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十二年九月十八日	備成地 東京並衛歩兵中二聯隊 行動の概要
九月六日	備成完結
九月十八日 九月十六日	部隊輸送業務
九月十七日	王家宅に待機
九月十八日 九月十八日	劉家行載家巷蘇州河渡河戦に参加
九月十八日	大場鎮に待機
九月十六日	南京に到る追撃戦に参加
九月十三日	南京に待機
九月十三日 九月十三日	南京出発鳳陽に至る戦に参加
九月十三日	鳳陽入城
九月十三日 九月十四日	蚌埠附近の戦闘に参加同日より蚌埠附近の警備

20

外

中

支

中
第十一軍

五頁	
四、七	懷遠永城黃口徐州に至る戦に参加
五、一 五、二七	徐州出發大葦集宿療を経て蚌埠着
五、二九	宿淮関に待機
七、一	宿淮関出發同日浦口着
七、三	浦口出發
八、五	九江に上陸
八、六	九江攻略戦馬鞍山附近の戦に参加
八、三六	廬山覆反炎山附近の戦並に馬頰嶺に向う追撃戦に参加
九、五	黄走門附近の警備
九、一七	黄老門出發同日九江着同日より九江に待機
十、十	九江出發瑞昌富永三硯口金中嶺を経て賀勝橋に至る追撃戦に参加
十一、一	賀勝橋橋出發武昌漢口を経て
十一、七	九江着
十一、一七	九江出發同日樸田着同地附近の警備
十一、十	樸田出發陽新へ転進戦に参加
十二、一六	玉皇廟着同日より陽新附近の警備
十三、一 十三、一 十三、一	玉皇廟出發陽新瑞昌を経て徳安麻大坪文に集結
三、三	修水渡河戦に参加

年月日	概要
昭十四、三、三三	奉新及荆韓戦に向う追撃戦に参加
三、三八	奉新附近へ果敢な警備
四、十一	奉新附近の警備並に戦斗に参加
七、十六	南昌附近の警備
十五、一、一	南昌附近の対陣戦に参加
四、三	南昌出発
四、九	揚子着
四、十三	宜昌依戦に参加
六、十九	当陽將沔天河附近の警備並戦斗に参加
八、三	当陽附近の警備並戦斗に参加
十、一	漢水依戦に参加
十、五	漢水依戦後に於ける当陽附近の警備
十、一、一	豫南依戦に参加
三、一	豫南依戦後に於ける当陽附近の警備
五、五	江北依戦尚遠安並觀音寺北方地区の戦斗
五、十六	江北依戦後に於ける当陽附近の警備
七、十二	当陽麻玉家出発
七、二十	天川縣皂市着同日より皂市附近の警備

八、三五	長沙依戦に参加
十、十八	應城縣湯池附近の警備
七、十五	天門縣皂附近の警備並討伐
五、十八	張家埠附近の戦斗に参加
十七、一、一	才二次長沙依戦向皂市附近の警備並討伐
三、一	皂市反京山附近の警備並討伐
四、三五	新贛依戦に参加
十、七	新贛依戦後に於ける京山附近の警備並討伐
六、三、十三	江北破滅依戦に参加
三、十七	江北破滅依戦に於ける京山附近の警備並討伐
五、八	江南破滅依戦に参加
六、十七	江南破滅依戦後に於ける京山附近の警備並討伐
十、三三	当徳破滅依戦に参加
十九、一、一	常徳破滅依戦後に於ける京山附近の警備並討伐
四、三九	湘桂依戦(第一期)に参加
八、九	湘桂依戦(第二期)に参加
十二、三	廣西省宣山縣北才附近の警備並討伐
三、四、五	都安依戦に参加
四、三	都安依戦後に於ける北才附近の警備並討伐

年月日	概要
昭和三十五、五	北斗出発
五、五	湘桂反攻作戦に参加
八、十四	停戦詔書発布
八、十六	復員下令
九、二	停戦協定締結
九、三	終戦後に於ける南潯地区への戦進
十、七	河西省湖口附近に集結
三、五、五	復員のため湖口出発
六、十五	内地帰還の悉上毎出発
六、二十	博多港上陸
六、二十	復員式挙行

41

外

中支

第十一甲

(164)

0673

追撃第四大隊略歴

追撃第四大隊

年月日	概	要
昭二、八十	編成下令	
八、十	陸軍少佐三枝延壽 大隊長に補せらる	
八、三十	姫路歩兵才三十九聯隊に於て編成	
八、三十	中支派遣のため宇品港出發	
九、六	吳淞上陸中支那派遣軍直轄として目浦鎮羅店鎮大場鎮蕪州附近に行動し引続き 南京徐州武漢地区へ行動す	
十四(月日下註)	揚子江を下航し安慶附近に移動しその周辺地区に行動す	
十四、十一(日)	才十三軍編成と共にその隷下に入らしめらる	
十一、三六	大隊長陸軍少佐三枝延壽戦死す	
十一、三六	陸軍少佐道家章磨大隊長に補せらる	
十五、二(日)	上海ニ移動し才十三軍直轄として行動す	
十六、三、一	陸軍少佐塩田(大隊長に補せらる)	
十七、九、三十	才二十二師団長の指揮に入らしめられ浙江省金華附近に移動す	
十八、十、十六	才十一軍司令官の指揮に入らしめられ金華出發湖北省常德地方に行動す	
十九、二、十	才十一軍司令官の隷下に入らしめられ武漢地区に移動す	

年 月 日	概 要
昭十九、三、一	陸軍少佐今中平八大隊長に補せらる
自昭十九、四、三 至、三、四	才三師団長の指揮に入らしめられ湘桂地区に行動す
自、三、五 至、三、五	才三師団長の下に廣西省に集結す
自、五、十八 至、五、十九	才三師団長の指揮の下に廣西省より全県末陽醴陵德安九江蕪湖南京鎮江と行動す
二十、九、七	江蘇省鎮江地区に集結し内地帰還を準備す
二十、二、八	鎮江出發
三、一	内地帰還のため上海港出帆
三、五	佐壽保港上陸
三、五	解隊

ノカ内

才十一軍

中支

(161)

0675

独立工兵第四十一連隊略歴

独立工兵才四十一連隊長 陸軍少佐 大多和光

年月日	略歴
昭和十九年四月六日	昭和十九年軍令陸甲第十一号に依り中華民國湖北省武昌に於て編成完結
自昭十九年四月二十二日至十九年十二月二十二日	連隊長 陸軍中佐 中原寅藏
自十九年十二月二十六日至十九年十二月三十一日	湘桂作戦に参加
自十九年十二月三十一日至二十一年一月二日	連隊長交代 陸軍少佐 大多和光
自二十一年一月二日至二十一年一月八日	廣西省柳州附近の警備
自二十一年一月八日至二十一年一月十七日	柳州—石竜虚間道路構築作業
自二十一年一月十七日至二十一年一月二十二日	才一中隊 柳州—鷄粒街間鉄道補修作業
自二十一年一月二十二日至二十一年一月三十一日	才二中隊 柳州—末賓間鉄道補修作業
自二十一年二月一日起至	才三中隊 湖南省祁陽に於て渡河作業
自二十一年三月三日起至二十一年三月十一日	廣西省宜山—柳州間兵器運送作業
自二十一年三月十一日起至二十一年三月十四日	湘桂反転作戦参加
自二十一年三月十四日起至二十一年三月十八日	停戦詔書発布
自二十一年三月十八日起至二十一年三月二十二日	復員下令
自二十一年三月二十二日起至二十一年三月二十六日	停戦協定成立

ノの外 第十一軍 中支

年月日	概要
昭三十九年	才十三師団長の指揮下に入る
十月	終戦に伴い南尋地区集結 江西省湖口景湖口
五月	内地帰還のため湖口出発
六月	上海港出発
六月	博多港上陸

(168)

0677

独立工兵第六十一大隊略歴

独立工兵第六十一大隊

年月日	概要
昭和十八年八月十三日	一 部隊は石巻市に於て独立工兵第六十一連隊編成担任官となり工兵大隊として編成
八月二十日	寒結し関東軍第六五軍に隷屬せしめらる
八月二十七日	二 部隊は八月二十七日内地博多港を出帆朝鮮釜田鉄道に依り
九月四日	満州国鉄嶺に到着爾後装備の補填充足と教育訓練の鞏化に邁進す
八月二十三日	三 冬期訓練及基礎教育のため十一月下旬より華中蚌埠に於て約四ヶ月間基礎及冬期訓練を実施し戊隊本然の教育を概成す
八月二十日	作戦参加のため
九月四日	在華中第六十一軍の編組に入らしめられ
三月下旬	より行動開始
四月中旬	武昌に集結を完了作戦を準備す
四月下旬	五 部隊は湘桂作戦の初期主力(本部及二中隊器材小隊)を以て第四十師団長の指揮に入り、一中第六十六師団、一中第五十八師団二材料中隊は第六二工兵司令部直轄の部署を以て作戦に参加し主として渡河交遊に従事
一九五二	

年月日	概要
昭二〇、八、一五	<p>第一期湘桂作戰末期より第二工兵司令部に属し概ね部隊主力を以て交通渡河水路輸送に任ず</p> <p>反転作戰に於ては軍直轄として或は第十一輸送司令官の指揮下に入り交通路の補修水路輸送に従事す</p> <p>行動地区</p> <p>柳州——桂林——衡陽——易俗河——長沙</p> <p>湘桂作戰向部隊主力は感状授典の光栄に浴す</p>
二〇、八、一五	<p>六終戦と共に部隊主力は以て初陽易俗河地区に於ける軍の集結渡河作業に任じ長沙南側地区に於ける第百十六師団の渡河を完了後水路機動に依り武昌に集結す</p>
二〇、九、三〇	<p>七部 集結と共に江岸地区集結部隊長の指揮に入り大東亜察内十一月下旬より華容鎮に移駐し復員行動迄第十一輸送司令官の指揮に入る</p>
四一〇	華容鎮泥礫出帆
四一六	上海着
四二二	上海出帆
四二九	舞鶴港上陸 同日復員す

(120)

0679

第一野戰輸送司令部略歴

第二十軍 第一野戰輸送司令部

年月日	主 要 略 歴
昭一六、七、七	一、軍令陸甲第号 第一野戰輸送司令部編成下令
一六、八、四	一、滿州国東滿綏省鶏寧縣鶏寧移駐
一七、五、一〇	一、補充交代帰還人員將校一名
一七、七、九	一、司令官陸軍大佐 栗岩尚治
一七、九、八	一、補充交代人員將校二名到着
一七、二、八	一、補充交代人員將校一名到着
一七、二、一〇	一、補充交代交代帰還人員將校一名下士官三名兵四名
一七、二、二二	一、補充交代人員兵九名到着
一八、八、八	一、補充交代人員下士官四名兵七名到着
一八、二、三	一、補充交代帰還人員下士官五名
一九、一〇、三	一、中華民国湖南省衡陽縣衡陽移駐
一九、一〇、三	一、湘桂作戦参加 死歿人員十三
一九、三、五	一、南部奥溪打通作戦参加 死歿人員十三

(177)

0680

2の外
 第十一軍
 中支

年月日	概	要
昭二〇、三、一	一 湘西作战参加	死歿人員十三
二〇、六、〇	一 司令官陸軍少将	栗岩尚治
二〇、九、三	一 中華民國湖南省長沙縣九福鄉移駐	在衛隊
二一、六、九	一 中華民國江蘇省上海移駐	
二一、七、一	一 内地帰還の爲江蘇省上海出帆	
二一、七、九	一 浦賀港上陸	

(172)

0681

第十一野戦輸送司令部略歴

自昭和二三・七・二五
至〇〇・九・二五

期	間	事	項
昭二三・六・二一	七・五	軍令陸甲第三十一号に依り動員下令	
〃	〃	第十一野戦輸送司令部編成（東京、輜重兵第一連隊に於て	
〃	〃	第十一野戦輸送司令官として湯原少将着任	
〃	七・九	動員完結	
〃	七・一七	東京出発	
〃	七・二二	上海上陸	
自昭二三・八・一〇	九・二二	九江、黄梅攻略戦	
自〃〃〃	九・二二	廣濟、瑞昌、馬迎嶺、西孤嶺、攻略戦	
自〃〃〃	九・二二	武漢攻略戦	
自〃〃〃	一〇・二	南昌攻略戦	
自〃〃〃	一〇・二	襄東会戦	
自〃〃〃	一〇・二	贛湘会戦	
自〃〃〃	一〇・二	冬季作戦	
自〃〃〃	一〇・二	冬季作戦後の警備	

3
の
内

期	向	幸	項
自 五 三	至 〇 一	湘桂作戦後に於ける桂林附近の警備並輸送業務	
自 四 三	自 〇 三	湘桂作戦	
自 四 一	自 〇 一	常德殲滅作戦後の警備	
自 三 七	自 〇 一	江南殲滅作戦後の警備及常德殲滅作戦	
自 六 四	自 〇 一	江南殲滅作戦	
自 三 〇	自 〇 一	浙贛作戦後の警備並 江北殲滅作戦	
自 〇 二	自 〇 一	第二次長沙作戦	
自 一 一	自 〇 一	第二次長沙作戦	
自 八 七	自 〇 一	第十一野戦輸送司令官として平岡少将着任	
自 一 〇	自 〇 一	江北作戦後の警備及長沙作戦	
自 五 三	自 〇 一	江北作戦	
自 五 三	自 〇 一	漢水作戦後の警備及豫南作戦	
自 一 六	自 〇 一	宜昌作戦後の警備及漢水作戦	
自 一 五	自 〇 一	第十一野戦輸送司令官として物部少将着任	
自 七 三	自 〇 一	宜昌作戦	

(174)

0683

	昭二〇、四、二〇 自〃九、五、二四 至〃九、二、二五
	第十一野戦輸送司令官として小林木佐著任 湘桂反轉作戦 復員下令 停戦協定締結

(175)

0684

野戦電信第九中隊略歴

一、部隊名

野戦電信第九中隊（呂才五五五九部隊）
自昭一五、八、五
至、一五、八、四
陸軍大尉 千葉

二、編成完結の状況

昭一三、一〇、一二	仙台工兵第二連隊に於て編成完結同日動員下令杭州湾李家宅に上陸後南京、漢口攻略戦を以て九江に駐る
一五、八、三	軍令陸甲第五号に依り編成改正
一五、八、二五	編成改正完結後第十一軍通信隊長の指揮下に入る

三、行動概要及其の日時

(自)昭年月日	至昭年月日	駐屯地	行動
一五、八、五	一五、八、五	九江	仙台工兵第二連隊に於て編成 杭州湾李家宅に上陸 南京攻略戦に参加 漢口攻略戦 軍令陸甲第五号に依り編成改正
〇、〇、三			書類

その他

(176)

0685

(自) 昭年月日	(至) 昭年月日	駐留地	行 動
一六、三、一	一七、一、三一	九江	第二次長沙作戦後に於ける警備
一七、九、一	一八、三、三一	杭州	大別山作戦並に江北作戦の警備
一九、一、一	一九、五、一〇	〃	常德作戦後の警備
二〇、一、一	二〇、五、三	遷江	湘桂作戦後の警備
二〇、八、三五		武昌	復員下令
二一、四、三一		上海	上海出帆
二一、四、三七		鹿児島	鹿児島港上陸
二一、四、三八		〃	復員式完了
二一、五、七		二日市	復員完結

(177)

0686

第七師團架橋材料中隊略歴

- 一、部 隊 名 第七師團架橋材料中隊
- 二、部隊長官氏名 陸軍大尉 山本 昇
- 三、編成完結の状況

編成月日及場所

昭和十二年十月 北海道旭川市

四、行動の概要及日時

年 月 日	概 要
昭和十二年十月	北海道旭川市に於て編成せられ、全年杭州湾の敵前上陸を初め同地附近の警備に従事
自「十三」至「十六」	中日事変に参加其の向南京、徐州、武漢、贛湘、宜昌、襄東、豫南、及長沙（第一次）の諸作戦並荊門附近の警備作業に従事す
自「十六」至「二〇」	大東亜戦役華中方面に参加、其の向沙洋鎮及蕪口鎮附近の警備常得作戦湘桂進攻及反転作戦並軍需品輸送に従事す
二〇、八、十四	湖南省雲陵縣東湘橋に於て停戦詔書浚発
〇、一〇	湖南省蕭折縣汀泗橋に於て武装解除完了

昭二一四二〇 五二九	兩後同地に於て第六戦区第十日本戦俘管理所に収容せられ 内地帰還のため湖北省咸寧出發 上海出帆 佐世保に上陸せり
---------------	--

(179)

0688

第百十六師團第八師團架橋材料中隊略歴

陸軍大尉 佐藤 一郎

編成完結の状況

年月日	事項
昭十三、七、十五	軍令陸甲第 号第八師團架橋材料中隊編成下令に依り
十三、七、十七	編成業務に着手
十三、七、二十四	編成完結す（盛岡）

行動の概要及日時

年月日	概要
昭十三、七、二十六	部隊は盛岡に於て編成を完結
十三、八、七	屯營盛岡出發、朝鮮——満州を經由 中華民国河北省天津に移駐部隊の諸整備をなし爾後左記の如き作戦に参加し、 現任に至る
十三、八、一五	津浦沿線の警備並軍需品の輸送
十三、三	黄河渡河作戦に参加

女の外

昭十三、五、十	徐州会戦に参加
十三、九、四	河南省信陽に移駐諸整備
十三、十一、十	武漢攻略戦に参加
十四、二、五	南昌攻略戦（修水渡河戦）
十四、四、一五	襄東作戦に参加
十四、六、一二	湖北省孝感に移駐（軍橋警備）
十五、四、三十	宜昌作戦に参加
十五、十三、五	湖北省荊州に移駐道路補修及左の作戦参加す
イ、十六、一、二〇	豫南作戦に参加
十六、八、三五	第一次長作戦に参加
十六、十一、四	湖北省荊門縣拾廻橋に移駐主力拾廻橋に位置し軍公路補修部隊の諸整備補充員の教育訓練え他左記の如き作戦に参加す
イ、十八、一、二十	江北殲滅作戦に参加
ロ、十八、四、三五	江南殲滅作戦に参加
ハ、十八、六、一	常德殲滅作戦に参加
十八、一、十	湖北省當陽縣河溶鎮附近の警備並同地附近の道路補修
十九、五、十	湘桂作戦に参加
二十、一、九	広西省柳州に移駐作戦後の整備柳州附近の警備築城、軍需品の輸送等に任ず

年月日	概要
昭二十、五、三五	廣西省維容に移駐 洛清河の渡河作業軍需品の輸送 監視軍公路の確保 補充員の教育訓練
二十、八、十四	第十一軍反転作戦に参加 停戦の詔書発
二十、九、二	休戦
二十、十、一	湖南省岳陽縣歐胡村に集結
二十、四、二七	復員のため漢口に集結
二十、五、二五	乗船のため上海に集結
二十、六、二	内地帰還のため海防艦第五七号に乘船 同日上海出航
二十、六、十	佐世保港に上陸
二十、六、十	復員式挙行

ケ
の
内

第十二師団架橋材料中隊略歴

年月日	主 要 略 歴
一三、一〇、二二	動員下令
一三、一〇、二五	動員完結
一三、一〇、三〇	出戦の為大里港出帆
一三、一一、一一	上陸作戦の為長崎泉五島沖に待機
一三、一一、二〇	浙江省杭州湾金山營に上陸
一三、一一、二一	南京攻略戦
一三、一一、二二	杭州攻略戦
一三、一一、二五	上海市駐留
一三、一一、二六	徐州攻略戦
一三、一一、二七	蚌埠駐留
一三、一一、二八	武漢攻略戦
一三、一二、二五	湖北省咸寧駐留
一三、一二、二六	南昌攻略戦
一三、一二、二七	江西省德安駐
一三、一二、二八	贛湘会戦

5
の
外

年月日	主 要 略 歴
自一八八〇	湖北省沔城附近駐留
自一八八〇	江南殲滅作戦
自一八八〇	江北殲滅作戦
自一八八〇	武昌附近駐留
自一八八〇	浙贛作戦
自一八八〇	沔陽作戦
自一八八〇	武昌附近駐留
自一八八〇	第二次長沙作戦
自一八八〇	武昌附近駐留
自一八八〇	長沙作戦
自一八八〇	湖北省沙洋鎮附近駐留
自一八八〇	豫南作戦
自一八八〇	湖北省沙洋鎮附近駐留
自一八八〇	宜昌作戦
自一八八〇	湖北省花園駐留
自一八八〇	湖北省咸寧附近駐留

(106)

5830

0693

第二十軍第十四師團架橋材料中隊略歴

年月日	主 要 略 歴
昭一三、七、一六	軍令陸甲第十四号により第十四師團架橋材料中隊編成下令
一三、七、一七	茨城県水戸市に於て編成業務に着手
一三、七、二四	編成完結、編成地 茨城県水戸市
	補充担任部
一三、七、二六	茨城県水戸市 工兵第十四連隊補充隊
一三、七、三〇	編成地 水戸駅出發
一三、八、四	下関港より朝鮮釜山に渡航
	蘆溝橋着
一三、九、四	永定河作戦に参加
一三、五、一〇	河北省新郷、清化鎮に駐留
一三、六、一	山西作戦に参加
一三、七、一〇	江蘇省徐州に駐留
一三、八、二〇	第一次補充員四七名到着
一三、一〇、一五	第一次交代帰還者三〇名出發、内地帰還

6
カ
内

(286)

0695

昭一三、二、一五	大別山を経て漢口攻略戦に参加
一四、三、四	南湘作戦に参加修水河の渡河作業
一四、五、一	城東作戦に参加
一四、六、一五	第二次補充員一〇〇名到着
一四、六、三〇	第三次交代帰還者一〇〇名内地帰還
一四、八、四	湖北省孝感景陽潭潭附近に駐留し同地に於て渡河作業並に道路補修作業に従事
一四、八、三〇	第三次補充員八〇名到着
一四、九、五	第三次交代帰還者五〇名出發内地帰還
一四、一、九	第四次補充員七〇名到着
一四、一、三〇	第四次交代帰還者五〇名出發内地帰還
一五、四、一〇	漢水作戦に参加
一五、七、三	湖北省荊門景沙洋鎮集結同地附近道路作業
一五、九、一	第五次補充員七〇名到着
一五、一、四	第六次補充員三〇名到着
一五、一、一五	第七次補充員二〇名到着
一五、一、三三	第五次交代帰還者七〇名出發
一五、一、三〇	予備作戦に参加

(187)

0696

年月日	概	要
昭一六、三、五	湖北省荊門県后港に集結同地附近の道路補修	
一六、三、二七	第八次補充員 一六〇名到着	
一六、四、一三	第九次補充員 二〇名到着	
一六、四、三〇	第六次交代帰還者二二〇名出発内地帰還	
一六、七、一五	第十次補充員六五名到着	
一六、八、一	第一次長沙作戦に参加	
一六、三、一五	第二次長沙作戦に参加	
一七、一、三一	湖北省武昌県武昌に集結同地に於て器材の整備	
一七、五、〇	浙贛作戦に参加	
一七、六、四	第十一次補充員二一五名到着	
一七、〇、八	湖北省武昌に集結同地に於て器材整備	
一七、〇、三〇	第七次交代帰還者一八〇名出発内地帰還	
一八、三、二八	第十二次補充員一〇二名到着	
一八、四、七	湖北省武昌県青山に移駐同地附近の警備	
一八、五、三〇	第八次交代帰還者九〇名出発内地帰還	
一八、〇、一八	常德殲滅作戦に参加	
一八、一、三二	湖北省武昌県青山に集結同地附近警備	

の外

年月日	概要
昭一九二九	第十三次補充員三七到着
一九三三八	湘桂作戦に参加
二〇三二一	江西省柳江景柳州附近に駐留
二〇三二五	第十四次補充員五〇名到着
二〇七七一	湖南省衡山景衡山附近に駐留船団輸送業務
二〇八一四	停戦詔書発布
二〇八三五	復員下令
二〇九二	停戦協定締結
二〇一〇一	長岳公路道路補修作業に従事
二一一一	湖南省長沙景橋頭に集結復員業務に従事
二一五〇	内地帰還のため橋頭集中地出発
二一六九	上海に集結
二一六八	内地帰還のため上海港出帆
二一七六	浦賀港上陸

(189)

0698